



2022年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社 アルファクス・フード・システム

上場取引所 東

コード番号 3814 URL <https://www.afs.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤井 由実子

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 菊本 健司

TEL 0836-39-5151

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第1四半期の業績(2021年10月1日～2021年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第1四半期	355	12.5	50		59		62	
2021年9月期第1四半期	406	19.3	17		2		1	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第1四半期	22.39	
2021年9月期第1四半期	0.61	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期第1四半期	2,056	33	1.8	12.14
2021年9月期	1,798	28	1.4	10.25

(参考)自己資本 2022年9月期第1四半期 36百万円 2021年9月期 25百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期		0.00		0.00	0.00
2022年9月期					
2022年9月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の業績予想(2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,228	34.4	58		36		30		10.83
通期	2,900	84.4	300		255		150		54.14

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期1Q	2,821,100 株	2021年9月期	2,513,800 株
期末自己株式数	2022年9月期1Q	50,364 株	2021年9月期	50,300 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年9月期1Q	2,770,736 株	2021年9月期1Q	2,463,500 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、コロナ禍の影響から先行き不透明な状況が続いております。

当社の主要販売先である外食市場におきましては、コロナ禍の影響を年末の忘年会にかけて大きく打撃をうけており、当社の顧客先である外食企業は、厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社は、創業時より一貫し、外食企業を中心とした顧客に対し、利益追求のための食材ロス削減を実現する「飲食店経営管理システム(R)」、人件費の最適化や生産性を高めるための勤怠集計管理システム「Timely」を主力に「食材費」・「人件費」の二大原価の透明化を掲げたシステムをASP/パッケージシステムで提供するとともに、業界に特化したPOSシステム、オーダーリングシステム、周辺サービス等を通してトータルソリューションシステムを提供しております。

当第1四半期累計期間は、当社主要顧客が例年通り年末年始繁忙期によるシステム投資控えである期間であるとともに、コロナ禍の影響により厳しい状況下ではあるため売上高355,326千円(前年同四半期比12.5%減)、営業損失50,985千円(前年同四半期は営業利益17,811千円)、経常損失59,984千円(前年同四半期は経常利益2,565千円)、四半期純損失62,032千円(前年同四半期は四半期純損失1,494千円)と減収減益となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

(ASPサービス事業)

当社は、顧客である外食企業に対し、ASPサービス事業を核としてASP/パッケージシステム事業、システム機器事業、周辺サービス事業を一体として提供しております。当事業におきましては、食材の自動発注システムによる効率化や各システムサービスによる自動化の要望から、売上高は343,343千円(前年同四半期比12.2%減)となり、セグメント損失は42,992千円(前年同四半期はセグメント利益20,766千円)となりました。

① ASPサービス事業

当事業におきましては、月額サービスの新規計上及び既存顧客へのサービス拡大と、「飲食店経営管理システム(R)」の販売を行った結果、当事業領域の月額サービスは、コロナ禍の影響による月額の値引きを受けたことにより、売上高は190,650千円(前年同四半期比6.9%減)となりました。

なお、月額サービス料は、3ヶ月累計で184,647千円(前年同四半期比2.0%減)となりました。

② システム機器事業

当事業におきましては、従来からのPOSシステム、オーダーエントリーシステム及びテーブルオーダーリングシステムについて、当初から予定していた納品がほぼ順調に推移した結果、売上高は140,836千円(前年同四半期比33.1%増)となりました。

③ 周辺サービス事業

当事業におきましては、提携先製品の販売、機器修理などのインテグレーション、サブライ製品などの販売を行った結果、POSシステムの販売の増加とともに、売上高は11,857千円(前年同四半期比85.2%減)となりました。

(ホテル関連事業)

当社は、ASP/パッケージシステム事業、システム機器事業、周辺サービス事業のトータルシステムを実施運用するためにナチュラルグリーンパークホテルの管理運営及びレストラン・カフェの運営を行っております。ナチュラルグリーンパークホテルにおいて、自社製品/サービスの実証実験店を兼ね、管理運営しており、自社製品のすべてを同ホテル内に導入稼働し、運営を実践しております。当事業におきましては、コロナ禍の影響から、売上高は21,953千円(前年同四半期比10.6%減)となり、セグメント損失は7,993千円(前年同四半期はセグメント損失2,954千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産合計は、2,056,728千円となり、前事業年度末に比べ257,863千円増加いたしました。これは主に売掛金41,152千円、現金及び預金206,685千円などの増加によるものであります。

負債合計は2,090,369千円となり、前事業年度末に比べ319,915千円増加いたしました。これは主に買掛金23,150千円、長期借入金261,290千円増加などによるものであります。

純資産は△33,641千円となり、前事業年度末に比べ62,051千円減少いたしました。これは主に四半期純損失62,032千円の計上に伴う利益剰余金62,032千円の減少によるものであります。

なお、財務の純資産には反映されないものの2021年12月に資本性劣後ローン400,000千円を実施いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は引き続き、従来からのASPサービス/パッケージシステム「飲食店経営管理システム(R)」、「自動発注システム」を核とした食材ロス/コスト削減サービス提供や、コロナ禍においても需要のある、コロナ禍対策製品(配膳AIロボット、除菌AIロボット、ウイルスゲート・ショット、2020年6月に特許を取得した外食産業用のセミセルフレジ「セルフショット(R)」)、の提供により、コロナ禍においても需要を開拓し、外食市場の新型コロナウイルス感染症の感染防止対策ニーズに対応してまいります。

2021年9月期の業績予想につきましては、2021年11月12日付の「2021年9月期決算短信」にて公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	121,512	328,197
売掛金	78,477	119,629
商品	350,214	363,912
貯蔵品	13,327	14,752
前渡金	84,765	111,124
前払費用	20,385	21,056
短期貸付金	16,200	16,200
未収入金	46,528	47,244
その他	12,155	12,444
貸倒引当金	△59,093	△61,680
流動資産合計	684,473	972,883
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	326,671	322,027
構築物(純額)	12,264	11,876
工具、器具及び備品(純額)	69,793	60,717
土地	130,838	130,838
リース資産(純額)	32,181	27,609
有形固定資産合計	571,749	553,070
無形固定資産		
ソフトウェア	312,284	294,024
ソフトウェア仮勘定	25,779	38,877
その他	2,746	2,722
無形固定資産合計	340,810	335,624
投資その他の資産		
投資有価証券	14,514	14,485
長期前払費用	143,216	142,698
敷金及び保証金	22,450	23,863
長期未収入金	138,988	137,170
その他	6,010	6,010
貸倒引当金	△127,858	△133,288
投資その他の資産合計	197,321	190,938
固定資産合計	1,109,881	1,079,633
繰延資産		
社債発行費	4,509	4,211
繰延資産合計	4,509	4,211
資産合計	1,798,864	2,056,728

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	29,422	52,572
短期借入金	484,277	501,816
1年内償還予定の社債	41,000	41,000
1年内返済予定の長期借入金	159,883	152,365
リース債務	21,843	19,631
未払金	13,945	42,661
未払費用	7,514	7,882
未払法人税等	13,393	4,146
未払消費税等	25,532	36,555
預り金	9,760	15,959
前受金	74,802	71,697
その他	1,430	—
流動負債合計	882,805	946,288
固定負債		
社債	117,000	117,000
長期借入金	729,446	990,737
リース債務	20,470	17,037
退職給付引当金	18,530	17,106
資産除去債務	2,200	2,200
固定負債合計	887,648	1,144,081
負債合計	1,770,453	2,090,369
純資産の部		
株主資本		
資本金	665,461	665,461
資本剰余金	455,322	455,322
利益剰余金	△1,057,877	△1,119,909
自己株式	△37,904	△37,904
株主資本合計	25,002	△37,029
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	148	128
評価・換算差額等合計	148	128
新株予約権	3,259	3,259
純資産合計	28,410	△33,641
負債純資産合計	1,798,864	2,056,728

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)
売上高	406,231	355,326
売上原価	217,760	245,001
売上総利益	188,471	110,325
販売費及び一般管理費	170,659	161,310
営業利益又は営業損失(△)	17,811	△50,985
営業外収益		
助成金収入	7,371	—
その他	381	680
営業外収益合計	7,752	680
営業外費用		
支払利息	3,867	4,245
支払補償費	—	4,741
貸倒引当金繰入額	18,537	—
その他	594	692
営業外費用合計	22,999	9,679
経常利益又は経常損失(△)	2,565	△59,984
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	2,565	△59,984
法人税、住民税及び事業税	4,059	2,038
法人税等調整額	—	9
法人税等合計	4,059	2,047
四半期純損失(△)	△1,494	△62,032

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。これにより、当第1四半期累計期間の損益及び利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半計累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額	四半期損益計算書計上額(注)
	A S P サービス事業	ホテル関連事業			
売上高					
外部顧客への売上高	391,263	14,968	406,231	—	406,231
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	9,583	9,583	△9,583	—
計	391,263	24,551	415,814	△9,583	406,231
セグメント利益又は損失 (△)	20,766	△2,954	17,811	—	17,811

(注) セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益又は営業損失と一致しております。

II 当第1四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額	四半期損益計算書計上額(注)
	A S P サービス事業	ホテル関連事業			
売上高					
外部顧客への売上高	343,343	11,983	355,326	—	355,326
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	9,970	9,970	△9,970	—
計	343,343	21,953	365,296	△9,970	355,326
セグメント利益又は損失 (△)	△42,992	△7,993	△50,985	—	△50,985

(注) セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益又は営業損失と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。